

## 第143回 関西大学メディア懇談会 実施概要

1 日時 2022年9月21日(水) 15:00～17:00

2 場所 梅田キャンパス8階ホールおよびオンライン (Zoom ウェビナー)

3 内容

**(1) 研究発表 (15:05～15:25) ※20分×1名**

発表者:熊谷 学而 (文学部准教授)

別紙1

テーマ:「かわいい」音声学

**(2) 第42回「地方の時代」映像祭2022 概要記者発表 (15:25～15:40)**

別紙2

・概要説明および入選作品紹介

／市村 元 (「地方の時代」映像祭プロデューサー、関西大学客員教授)

**(3) 学内状況の説明 (15:40～16:45)**

① カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みが加速

P1～

・独自ロードマップ“Roadmap to Carbon Neutrality by 2050”を策定

・関西大学カーボンニュートラル研究センター設立および記念シンポジウムを開催

② 総合情報学部・林武文教授が開発した立体錯視看板『モジでる』の販売事業を開始

P5～

③ 社会学部・劉ゼミによる「海外の若者が知りたい日本文化」の動画制作プロジェクト

P9～、別紙3

～フィリピン・AMA大学の学生に、日本の若者のリアルなライフスタイルを届ける～

④ 社会学部・池内ゼミによる大阪府キャラクター「もずやん」認知度向上プロジェクト

P11～、別紙4

～山本珈琲らと連携し、4種のオリジナルコーヒー『喫茶もずやんらんど』を開発～

(その他資料)

・『関西大学 研究・技術シーズ集』(2022-2023)

会場置き配付

・「関西大学フェスティバル in 関西」および「まちFUNまつり2022」開催チラシ

P13～、別紙5

・「関西大学GAPプログラム」紹介チラシ

P15、別紙5

・東京センター主催「関西大学教育フォーラム」開催チラシ

P16、別紙5

・『関西大学通信』vol.499、500

会場置き配付

**(4) 意見交換・質疑応答 (16:45～)**

・テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。(音声およびQ&Aいずれでも可)

※オンライン参加の場合は、随時、Q&A機能を使っての質問を受け付けます。

※時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学関係・出席者(予定)

前田裕学長、大津留智恵子副学長、佐々木保幸学長補佐、熊谷学而准教授(文学部)、市村元客員教授  
高橋智幸教授(副学長、社会安全学部)、林武文教授(総合情報学部)、劉雪雁教授(学長補佐、社会学部)  
およびゼミ学生、池内裕美教授(社会学部)およびゼミ学生、松並久典総合企画室長、藪田和広学長室長、  
植田光雄学長室次長、依藤康正広報課長 ほか

5 備考

・会場には、『モジでる』のサンプル模型を展示します。(学内状況②関連)

・対面参加者には『喫茶もずやんらんど』の試飲コーヒーをご提供します。(学内状況④関連)

以上

【次回のメディア懇談会(第144回)について】

2022年12月上旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

# 「かわいい」音声学

文学部 准教授 熊谷学而

## 【概要】

音声学とは、言語学の下位分野の1つであり、言語の音に関する学問領域である。我々人間がことばを話すとき、どのように音を発音（調音）しているかを探究する。しかし、音声学は「発音の方法」を単に記述するだけではない。人間言語の特徴の1つに「音はある意味やイメージと結びついている」現象—音象徴（おんしょうちょう）—がある。音象徴は言語学（音声学）・心理学・認知科学の分野を中心に精力的に研究されているトピックである。本発表で扱うテーマは、音声学の中でも音象徴に関する研究である。

音象徴の研究において、未だ探究されていないイメージの1つに「かわいい」イメージがある。「かわいい」は英語で‘cute’と一般的に訳されるが、その意味はかなり広く、定義が困難とされる。しかし実際に、日本語話者であれば「かわいい」と直感的に感じる体験をしたことがある。この直感的な感性が心理学（入戸野 2019）や感性工学（大倉 2017）の分野における研究対象となっている。このような背景に基づき、発表者は「かわいい」イメージと結びついている音とは何か？それはどのような特徴を持っているのか？これらの課題について、言語学（音声学）の観点から探究する。本発表ではその事例研究を紹介する。

日本で市販されている赤ちゃん用オムツの名前には「ムーニー」「メリーズ」「マミーポコ」などがある。これらの名前には、[p]（パ行）や[m]（マ行）のような両唇音（両方の唇を使って発音する音）が含まれている。両唇音は、幼児語の「パパ[papa]」や「ママ[mama]」などに見られるように、赤ちゃんが早期に獲得する音として知られている。そこで、日本語母語話者を対象に、新しい赤ちゃん用オムツの名前と（比較のために）化粧品の名前を考えてもらい、そこに含まれる音の傾向を分析した。その結果、赤ちゃん用オムツの名前には両唇音を含んだ名前が多く現れることがわかった（熊谷・川原 2020）。さらに、無意味語を用いた生産性の実験では、両唇音を含む名前は「かわいい」名前として判断されやすいことがわかった（Kumagai 2020）。これらの結果から、両唇音は「かわいい」イメージと結びついている音のカテゴリーであると結論づける。

## 【プロフィール】

関西大学文学部准教授。慶應義塾大学言語文化研究所兼任所員。2016年首都大学東京（現：東京都立大学）大学院人文科学研究科修了。博士（言語学）。専門は言語学（音声学・音韻論）。2018年明海大学専任講師。2021年より現職。最近は、音象徴の観点から「ポケモン」や「ハリー・ポッター」シリーズに関する名付けの研究などを行っている。